

所謂中原逐鹿の場、四方必争の地にして、東周、東漢以來、屢々支那大帝國の帝京と爲り、玉珂を鳴らす公子、顔色を惜む美人が、看花醉月の榮華を極めし舊都なれば、縦令物變り星移るも、亦多少の俤を存せんと夢想せしに、何事ぞ這般の想像は、一も當るもの有らずして、空しく麥秀の嘆を發せしめたり。河南巡撫衙門は、去つて開封府に置かるゝも亦宜なり。されば一日視察の爲にせし滯留は、徒に休養と變じて、何物をも獲ること無かりし。

洛陽は其の城壁總て磚を以てし、周圍龍大數里に亘り、南は洛河に臨んで北に邙山を負ふ。東西は共に開濶なる平坦の原野にして、市街は狭く而も高低平かならず、殷賑の街達は之を南街と稱ふ。府の人口約二萬と稱す、府縣の各衙門、巡警局、郵便局、電報局、工藝局等あり、又た學校には中學堂、小學堂各一個を有するのみ。宗教は回教徒約五百、耶蘇テシチユチヤオ天主教徒各々約一百、他は佛教及儒教とす。兵備としては僅に八十名の駐屯するあるのみ。輸入貨物は我國製の「カタン」糸、煙草、「マツチ」玩具、手巾、及更紗、友禪類、洗臉盒等其の主なる物なるべし。輸出品は南方龍門産の毛氈、石炭等、特に綿花、綿布の輸出額は毎年二十萬金に上ると云ふ。通貨は制錢千二百二